

## 災間スタディーズ 分有資料室 所蔵リスト

デザイン・クリエイティブセンター神戸

2024.4.1更新

タイトル	執筆・編者	出版社	制作年	三宮図所蔵
<b>(1) 災間文化研究会</b>				
震災後のエスノグラフィ ——「阪神大震災を記録しつづける会」のアクションリサーチ	高森順子	明石書店	2023年	○
残らなかったものを想起する:「あの日」の災害アーカイブ論	高森順子編	堀之内出版	2024年	×
中越地震から3800日～復興しない被災地はない～	中越防災推進機構・復興プロセス研究会	ぎょうせい	2015年	×
防災・減災の人間科学 いのちを支える・現場に寄り添う	矢守克也・瀧美公秀編著、近藤誠司・宮本匠著	新曜社	2011年	△
現場（フィールド）でつくる減災学 共同実践の五つのフロンティア	矢守克也・宮本匠編	新曜社	2016年	○
誰もがく助かる>社会 まちづくりに織り込む防災・減災	瀧美公秀・石塚裕子編	新曜社	2021年	×
6年目の風景をきく 東北に生きる人々と重ねた月日	佐藤李青・嘉原妙	アーツカウンシル東京	2016年	○
FIELD RECORDING vol.01 特集:記録の生態系にふれる		アーツカウンシル東京	2017年	×
FIELD RECORDING vol.02 特集:表現の水脈をたどる		アーツカウンシル東京	2018年	×
FIELD RECORDING vol.03 特集:経験を受け渡す		アーツカウンシル東京	2019年	×
FIELD RECORDING vol.04 特集:出来事を重ねる		アーツカウンシル東京	2019年	○
FIELD RECORDING vol.05 特集:自分のことを話す		アーツカウンシル東京	2020年	×
震災後、地図を片手に歩きはじめる	佐藤李青	アーツカウンシル東京	2020年	○
10年目の手記	瀬尾夏美・高森順子 佐藤李青・中村大地 13人の手記執筆者	生きのびるブックス	2022年	×
分有通信 vol.1～vol.5	bun-tsu編集室	災間文化研究会	2023年	—
TARL「災間の社会を生きる術（すべ/アート）を探る 災害復興へのいくつかの「かわり」から」（2021年7月～12月）		アーツカウンシル東京	2021年	—
<b>(2) 阪神・淡路大震災とアート</b>				
阪神・淡路大震災＋クリエイティブタイムライン マッピング		デザイン・クリエイティブセンター神戸	2015～2020年	—
地震イツモノート キモチの防災マニュアル	地震イツモプロジェクト編 瀧美公秀:監修 寄本文平:絵	木楽舎	2010年	△
BE KOBE 震災から20年、できたこと、できなかったこと	BE KOBE プロジェクト	ポプラ社	2015年	×
阪神大震災は演劇を変えるか	AICT日本センター関西支部 内田洋一・丸鬼葉子・瀬戸宏	晩成書房	1995年	△
震災と美術をめぐる20の話 1月17日を通して	インタビュー・構成: 山下里加	ギャラリーラ・フェニーチェ	1996年	△
これからの芸術文化政策——その課題と方途を探る	芸術文化振興連絡会議 <PAN>編	芸団協出版部	1996年	△
南芦屋浜コミュニティ&アートプロジェクトドキュメント展 Part2		芦屋市立美術館	1999年	△
南芦屋浜コミュニティ&アートプロジェクト 6年間の軌跡		南芦屋浜コミュニティ&アートプロジェクト	2004年	×
その日に—5年後、77年後 震災・記憶・芸術		川崎市岡本太郎美術館	2000年	×
震災から5年 震災と表現		芦屋市立美術館	2000年	×
震災から5年 震災と美術—1.17から生まれたもの—		兵庫県立美術館	2000年	×
全国アートNPOフォーラム in 神戸 『これからの10年を考える』 神戸・長田 インタビュー集	樋口貞幸	NPO法人ダンスボックス	2014年	×
<b>(3) 神戸スタディーズ</b>				
神戸スタディーズ#1～#3「時間と空間を横断しながら、足元をみつめる」		デザイン・クリエイティブセンター神戸	2014年	—
神戸スタディーズ#4「"KOBE"を解す せめぎあいにみる神戸の都市史」		デザイン・クリエイティブセンター神戸	2016年	—
神戸スタディーズ#5「神戸港からの眺め」		デザイン・クリエイティブセンター神戸	2017年	—
神戸スタディーズ#6「"KOBE"を語る GHQと神戸のまち」		デザイン・クリエイティブセンター神戸	2018年	—
カメラの前で演じること 映画「ハッピーアワー」テキスト集成	濱口竜介、野原位、高橋知由	左右社	2015年	△

(4) 災間スタディーズ				
想起の音楽	アサダワタル	水曜社	2018年	×
素が出るワークショップ 人とまちへの視点を変える22のメソッド	饗庭伸・青木彬・角尾宣信	学芸出版社	2020年	×
ラジオ下神白 あのときあのまちの音楽からいまこへ 2017-2019		アーツカウンシル東京	2019年	×
アサダワタルと下神白団地のみなさん「福島ソングスケイプ」	アサダワタルと下神白団地のみなさん	Granny Rideto	2022年	×
わたしは思い出す	松本篤 (AHA!)	remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]	2023年	×
サザエさんたちの呼びかけ：阪神大震災・瓦版なまず集成1998-2008	季村範江	震災・まちアーカイブ	2008年	○
(5) <分有>をたどる：【記憶・歴史・表現】フォーラムをめぐって				
Someday, for somebody いつかの、だれかに：阪神大震災・記憶の<分有>のためのミュージアム構想   展 2005 冬 神戸	「記憶・歴史・表現」フォーラム編	「記憶・歴史・表現」フォーラム	2005年	△
記憶表現論	笠原一人・寺田匡宏編	昭和堂	2009年	△
訪ねてみよう 戦争を学ぶミュージアム／メモリアル	【記憶と表現】研究会	岩波書店	2005年	△
生者と死者のほitori～阪神大震災・記憶のための試み～	笠原芳光・季村敏夫編	人文書院	1997年	△
日々の、すみか	季村敏夫	書肆山田	1996年	△
カストロフと時間——記憶／語りと歴史の生成	寺田匡宏	京都大学学術出版会	2018年	△
(6) <分有>のゆけえ：東日本大震災後の“術としてのアート”				
あわいゆくころ	瀬尾夏美	晶文社	2019年	△
二重のまち／交代地のうた	瀬尾夏美	書肆侃侃房	2021年	×
声の地層	瀬尾夏美	生きのびるボックス	2023年	×
素手のふるまい 芸術で社会をひらく	鷲田清一	朝日文庫	2020年	△
図録「3.11とアーティスト：10年目の想像」		水戸芸術館現代美術センター	2021年	×
コミュニティ・アーカイブをつくろう —せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」奮闘記	佐藤知久・甲斐賢治・北野央	晶文社	2018年	△
3がつ11にちをわすれないためにセンター 活動報告		せんだいメディアテーク	2015年	×
3がつ11にちをわすれないためにセンター 資料カタログ		せんだいメディアテーク	2021年	×
つくる<公共> 50のコンセプト	せんだいメディアテーク編	岩波書店	2023年	△
あいたくて ききたくて たびにでる	小野和子	PUMPQUAKES	2019年	△
「辺境」からはじまる 東京／東北論	赤坂憲雄・小熊英二 編著	明石書店	2012年	△
その他関連資料				
地震 住まい 生活	岸本幸臣、宮崎陽子	彰国社	2008年	○
阪神大震災と西神ニュータウン		西神ニュータウン研究会	2005年	△
見る、聞く、話す、感じる、そして考える。	藤浩志+えずこホール	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室	2013年	×
神戸ものがたり	陳舜臣	神戸新聞出版センター	2017年	○
女たちが語る阪神・淡路大震災		ウィメンズネット・こうべ	1996年	×
あの日 わたしと大吉の阪神淡路大震災	日比野克彦	講談社	2001年	△
野田北部の記憶（震災3年後のあゆみ）	野田北部まちづくり協議会記念誌出版委員会	野田北部まちづくり協議会	1999年	×

※△は神戸市内図書館には所蔵あり